

北九州空港エアポートバスの路線見直しについて

将来に向けて、安定的にエアポートバスを運行していくため、以下の見直し（案）を実施し、収支の改善を図ります。

本市では、北九州空港の利用促進のため、重要な公共交通機関であるエアポートバスの運行にかかる経費を助成しています。平成 28 年度の助成額は、小倉、朽網、黒崎・折尾・学研都市の 3 つの路線の合計で約 1 億 6 千万円となっています。中でも黒崎・折尾・学研都市線は約 8 千万円と、全体の半分に相当しています。

このため、下記のとおり 3 つの見直しを実施し、利便性の確保をしつつ、収支改善を図ります。皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

記

(1) 路線見直し（案）の概要

ア 黒崎・折尾・学研都市線のうち、利用の少ない一部の時間帯について、運行区間を黒崎から空港間に改め、効率化を図ります（現 12 往復中、5 往復を対象とする）。

イ 小倉線の運賃を値上げします（620円⇒700円）。

ウ 小倉線の臨時便体制を強化し、柔軟な増発体制を構築します。

（見直し時期）平成 29 年 10 月 29 日（日）（航空便冬ダイヤの改定と同時期）

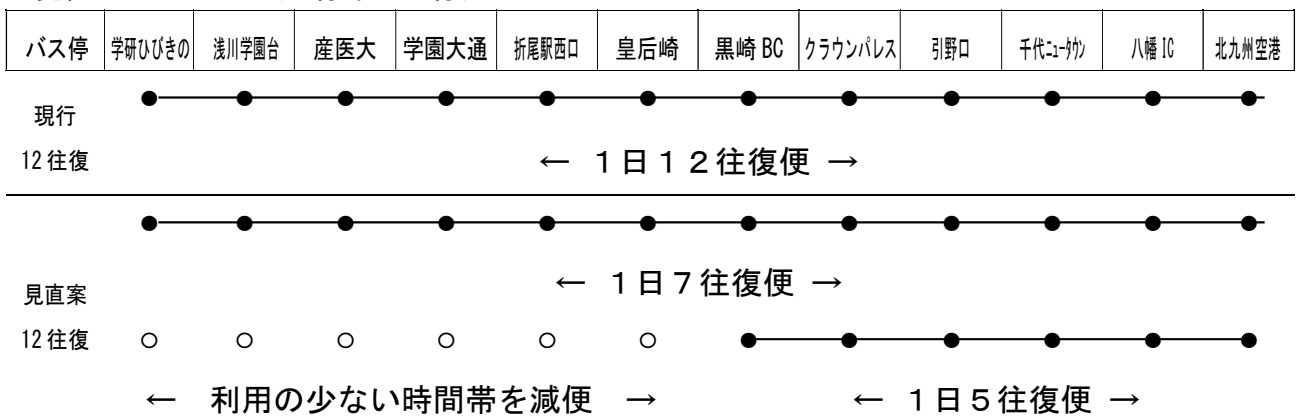
（収支改善効果）年間約 40 百万円

(2) 見直しの内容

ア 黒崎・折尾・学研都市線のうち、一部の時間帯で運行区間を改定（黒崎～空港間に変更）

現在、学研都市ひびきのと空港間を 1 日 12 往復運行しているが、このうち、利用の少ない 5 往復については、運行区間を、黒崎バスセンターと空港間に変更する。これにより年間約 16 百万円の運行経費軽減を図る。

※見直しイメージ（●停車バス停）



イ 小倉線の運賃値上げ（620円⇒700円）

小倉線は、3つのエアポートバス路線の中で、利用者数が最も多いが、未だ収支がバランスする状態には至っていないため、一定程度の受益者負担（運賃を80円値上げ）をお願いすることで、年間約47百万円の収支改善を図る。

ウ 小倉線の臨時便運行体制の強化

小倉線においては、旅客動向により、満席となるケースが一部の時間帯で散見される。このため、臨時便の運行体制を強化し、旅客数の変動に柔軟な増発体制を構築する。これにより、年間約23百万円の運行経費増となる見込み。

※小倉線は、値上げと臨時便運行体制の強化を合わせて24百万円の収支改善

(3) 見込まれる収支改善効果

以上3つの見直しを実施し、路線全体で年間約40百万円の収支改善を図る

(参考) 平成28年度実績をベースとした試算

(単位 百万円)

路線名	運賃 (円)	運行 便数	利用 者数	便あたり	運行 経費	運行 収入	運行 支援金	見直し 効果
小倉線	~620	38往復	34万人	12.3人	255	202	53	} 24 (改善)
見直後	~700	体制強化	36万人	13人	278	249	29	
黒崎・折尾・学研都市線	~800	12往復	7万人	7.7人	132	50	82	} 16 (改善)
見直後	~800	7往復(学研) 5往復(黒崎)	6万人	7人	111	45	66	
朽網線	~410	32往復	14万人	6.0人	64	38	26	—
合計					451	290	161	} 40 (改善)
見直後					453	332	121	

※運行経費はバスの更新タイミングや燃料費の変動などにより、年によって変化するため見込値

※利便性向上策や、収支改善策は、運行事業者との協議の上、実施します